



学校だより「杜の子」



市川三郷町立
上野小学校

発行者（文責）
校長 保坂 久信

5年生の林間学校です



5年生は、6月23日（火）から1泊2日で、北杜市高根町清里に出かけました。目的は、自然を愛する心を養うこと、助け合い協力し合うことを学ぶこと、集団の一員という自覚を高め、規律を守る態度を育てることでした。

飯盛山ハイキング、野外炊事のカレーライスづくり、ナイト追跡、冒険ハイク、木のスプーン、フォークづくりを楽しんできました。令和17年度に統合が決まっている大塚小の児童とも現地で交流を深めました。

子供たちの感想より…

○木のスプーンづくりで一番大切だと思ったことは、自然の物にふれてつくるといことです。林間学校で身につけた力を、修学旅行や家での生活にも生かしたいと思います。

○私は、林間学校のテーマにした「おもいのやり」をいしきして、大塚小のみんなと仲良くなりたいと思っていました。自己紹介をして、仲良くなれたので、うれしかったです。



○冒険ハイクをしました。簡単そうだと思っていましたが、けっこうむずかしくて大変だったけれど、無事に協力してゴールできたのはうれしかったです。

○ナイトついせきをしました。暗い夜の中、みんなと正解の道が通れたし、みんなで足元に気をつけて進めたのが、一番の協力だと思いました。

○一番楽しかったのは、ナイトついせきです。先生がかけていたり、すぐそばに小川があったり、まよったりしたことが、たのしかったです。

○野外すいじは、班のみんなで仕事を分担しました。できあがったあとで、みんなで食べました。とてもおいしかったです。

○みんなで協力できたことは、冒険ハイクの友情のかべウォールです。班のみんなを登らせてあげたり、登らせてもらったりしました。チーム一丸となって、かべを登るには、協力がないと無理でした。

○冒険ハイクの暗夜行路で、前の人から後ろの人へ、うまく情報を伝え合えて進むことができたのでいい協力ができていたと思いました。

○飯盛山ハイキングに行きました。とても時間がかかったけど、山頂から見た景色は最高でした。下山して、しし岩でご飯を食べました。中にシュウマイが入っていて、おいしかったです。

6年生に吉原あさひさんをお迎えしました



7月7日（火）に、6年生教室に「総合的な学習の時間」のゲストティーチャーとして、吉原あさひさんをお迎えしました。吉原さんは、地域の活性化のための活動を行っている上野小の卒業生です。総合的な学習の時間の目標は、「自己の生き方を考えることができるようにすること」です。修学旅行で「市川三郷と鎌倉の比較」をテーマの一つとした6年生の、第2ステップとして、「自分の生き方とふるさととの関わり」を考える学習が始まりました。

読み聞かせ、ありがとうございます



今年度は、原間美奈子様、藤田絵美様、遠藤絵里様、杉山里恵子様、相田美雪様、市瀬一美様、丹沢恵美子様、野村穂奈美様、一瀬敏子様、市瀬杏奈様、内藤英理子様、相田祐実様、丹沢浩江様が、ボランティアで年間7回の「読み聞かせ」で子供たちを楽しませてくれています。みなさまの温かさに触れ、子供たちは、この地の良さ、ふるさとの温かさを感じていると思います。ありがとうございます。

こんな、一学期でした…

ひとつ階段を上った子供たちの一学期が終わります。4月から、わずか3か月と少しなのですが、ずいぶん、成長しました…。あの頃できなかったことが、次から次へとできるようになり、学びによる変身が日々、行われている場所が教室です。子供たちが学んだ教室には、その「跡」が確かに刻まれています。



1年生：「きらきらぼし」という学級通信タイトルに込めた願いの通り、きらきらの18名です。友達と協力したり、学習に興味を持って意欲的に取り組んだりすることができました。



2年生：「わくわく」という通信タイトルのとおり、新しい学習に興味を持って取り組みました。時間への意識が高まったり、育てることを通して命の大切さを感じたりすることができました。



3年生：「てをつなぐ」と名付けられた通信は3年生の仲間づくりに込めた願いです。互いに学び合う雰囲気が育っています。声を掛け合い、友達とのつながりが深まりました。



4年生：4年生の通信タイトルは「全力・信頼・挑戦」です。役割の理解、責任、相談、協力、交流と行った力が育ちました。社会科見学では、働く人びとの工夫や努力について学びました。



5年生：5年生は「森×15！もりっこ」です。多くの活動のおかげで、チームワークが強まりました。友達の励ましが力につなが

ることを学び、学習への集中力と粘り強さを身につけたりしました。

6年生：「キセキ 奇跡 軌跡 輝石」が通信のタイトルです。時間への意識の高まりとともに、落ち着きが見られます。学習面では、粘り強さ、探究の深まりがあります。

「伸びよ 杜の子」～おもうちこと～



FIFA ワールドカップには、世界の面白さがある。大会の度に「にわか」ファンになる私は、今回も試合と同時に、付随するその「おまけ」も楽しんでいる。

例えば、初出場のカーボベルデ共和国。アフリカの島国で、人口は山梨より少ない54万。安定国だという。選手は世界中に散らばっているらしいが、ルーツを持つ選手を監督がSNSで発掘したという。その際、選手を結びつけたのは、祖国の第一言語だそうだ。言語が、選手たちのアイデンティティを統合したのだという。おまけの面白さである。

大会を通して、選手やサポーターは、異なる言語や文化、宗教、価値観をもつ人々と交流する。そして、互いを理解しようとする機会を得る。相手チームをたたえたり、文化を尊重したりする姿は、国際理解の大切さを示してもいる。

現代社会には、異文化理解、尊重する姿勢が求められるが、ワールドカップで、その姿を映像として見ることは子供たちにとって大きな意味もある。試合だけでなく「おまけ」の持つ魅力、価値にも触れ、世界を感じてみるといい。そういうもの全てを含んで、FIFA ワールドカップは面白い。子供たちにも多様な視点から楽しませてあげたいと思う。

